

S U N T O R Y C U P

**JAPAN KID'S
TAG RUGBY**

C H A M P I O N S H I P

サントリーカップ
第13回全国小学生タグラグビー選手権大会

福岡県予選大会

開催日 2016年11月19日（土）

開催場所 西部運動公園（福岡市西区飯盛）

福岡県大会要項

大会名称	サントリーカップ 第13回全国小学生タグラグビー選手権大会 福岡県予選
目 的	全国各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、仲間と助け合って自ら考えて道を切り開くラグビースピリットを身につける楽しさと教育効果を通じて、スポーツの意義を実感する。
主 催	(財)日本ラグビーフットボール協会
主 管	九州ラグビーフットボール協会、福岡県ラグビーフットボール協会
後 援	文部科学省、福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会、公益法人福岡市スポーツ協会 朝日新聞社、朝日学生新聞社
特別協賛	サントリーホールディングス株式会社
協 賛	アディダス ジャパン株式会社
開 催 日	平成28年11月19日(土)
会 場	西部運動公園 (福岡市西区飯盛)
競技規則	(財)日本ラグビーフットボール協会タグラグビー標準競技規則に基づく大会規則に準ずる。
競技方法	予選プール戦と決勝トーナメント戦の併用を基本とするが、参加チーム数により決定する。
参加資格	(1)小学生4～6年生(日本の学期制による)で編成したチームで、学年の編成内容は問わない。 (2)原則、単一小学校の参加とするが、単一小学校でチームが組めない場合は、他の小学校の生徒を加入させても良い。(ラグビースクールとしての参加も可とする。) (3)参加チームは成人2名が必ず帯同コーチとして引率し、登録選手の保護者から参加の承諾を得ていること。また、大会要項その他主管団体の定める大会規則の遵守を誓約すること。 (4)帯同コーチは当該チームを指導掌握し、責任を負う事の出来る者であること。 但し、予選大会において帯同コーチが複数のチームを兼任する事は構わない。 (5)帯同コーチは所属小学校長(複数であれば総て)の承認を受けていることが望ましい。 但し、必ずしも小学校長の承認がなくても、帯同コーチの責任において参加することも可能とする。 (6)参加登録費(保険料含む)を納める。 ※ 参加資格について不明の点は大会責任者(福岡県協会外)担当 結城 090-7166-1729)までお問い合わせください。
罰 則	大会要項、大会諸規約、競技規則について、違反などスポーツマンシップに反する行為があった場合は厳重な処罰を行う。(指導者、観戦者にも適用する)
安全対策	(1)大会期間中は主管団体が所定の救急指定病院を定める。 (2)大会期間中は、主管団体が担当医師及びメディカルスタッフ、ウォーターボーイを任命する。 (3)試合中の傷害について、当日の応急の医療処置は主管団体が施すが、事後処理はチーム及び保護者が行うものとする。 (4)大会期間中の保険は主催者(JRFU)でまとめて加入する。
健康管理	(1)大会参加にあたっては、当該チームにて予め健康管理を行い、十分留意すること。 (2)試合中以外での病気傷害については、チーム内で処理すること。 (3)参加選手は全員保険証またはそのコピーを持参し、大会期間中チーム責任者が管理すること。
肖像権	大会出場選手の肖像権ならびに全ての権限は主催者にあるものとする。 ※公式ウェブサイト内の掲出や、次年度の大会のポスター・プログラム等に使用される可能性がある。
参加費	選手1名当たり200円(傷害保険料含む)を参加登録費として納める。
表 彰	優勝、準優勝チームを表彰し、当該2チームは平成29年1 or 2月に行われる九州ブロック大会への出場権が与えられる。

参加申込 別添の参加申込書により下記宛に Fax で申し込む。 申込締切日：平成28年11月10日（木）必着

そ の 他 (1)旅費、交通費の補助はしない。
(2)大会で使用するタグセット、タグボール、ビブスは主管団体が用意する。

問合せ先 福岡県ラグビーフットボール協会 普及育成委員会タグラグビー担当 結城利治
Fax： 092-715-0585
携帯番号：090-7166-1729 Eメール： topi5724@yahoo.co.jp

以 上

2016 年度福岡県大会規則

1、グラウンド

グラウンドサイズは横 30m×縦 40m（ゴールラインからゴールライン）、インゴール（ゴールラインからデッドライン）は各 5m ずつとする。

2、ボール

4 号球を使用、空気圧は 0.5～0.6kg/c m²で主催者が用意したものを使用する。

3、チーム

- (1) 競技グラウンド内にいる 5 名のプレーヤーと入替可能な 3 名以上 5 名以下のプレーヤーから成り、原則として予選大会エントリー時の登録のまま決勝大会に出場すること。ただし、負傷や疾病等によりチームの人数が 6 名～5 名になった場合は、そのチームは大会には出場できるが、オープン参加とし、上位の大会への進出は認めない。

① コーチは予選大会の各試合において、後半開始時まで登録選手は必ず全員出場させること。これに反する場合、相手チームの不戦勝とする。

② 負傷、疾病が続く、出場可能なプレーヤーが 4 名以下になった場合、公式試合は行えない。

- (2) 試合開始時、試合に必要なプレーヤー及び帯同コーチが揃わない場合、相手チームの不戦勝とする。

- (3) 帯同コーチは成人 2 名とする。コーチは試合中に次のことができる。

- ① 負傷者の救助等でレフリーの指示があった場合に競技グラウンド内に入ること。
- ② グランドサイドの主催者が指定する位置で、チームプレーヤーへの教育的かつ建設的助言を行うこと。
- ③ グランドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの入れ替えに関する管理を行うこと。
- ④ ハーフタイムに競技グラウンド内に入り、プレーヤーに指示を与えること。
- ⑤ グランドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの健康、安全管理を行うこと。

- (4) 帯同コーチは大会期間中の選手、自チーム応援者の言動について一切の責任を負う。これができない場合、警告以上の処分が与えられる。

- (5) レフリー、アシスタントレフリー、第 3 タッチジャッジ、競技役員はチーム、帯同コーチ、観客の言動が悪質な妨害行為にあたりと判断した場合、警告以上の処分を科すことができる。

4、プレーヤーの服装

- (1) プレーヤーの服装については以下の通りとする。

- ① 運動に適した服装（学校体操着など）
- ② 運動靴または非金属の固定スパイク。取り替え式のスパイクは認めない。
- ③ タグ・タグベルト・ビブス。タグは日本協会規定サイズ（50mm×375mm）。タグ、タグベルト、ビブスともに、主催者が用意する。

* スポンサー名・商品名等の入ったユニフォームについては事前に事務局にお問合せ下さい。

- (2) プレーヤーは以下のものを着用することができる。

- ① 髪留め（ゴム製）
- ② めがね（試合中に脱落しないよう、固定すること。万が一の接触に備えて、強化プラスチック製のものを着用することが望ましい）

- (3) 以下の物については着用を認めない。

- ① 手袋（タグの色と紛らわしいため。また、着用の有無による利益不利益をなくすため）
- ② ギブス等医療装具（着用しないとプレーできない場合は出場させるべきではないから）
- ③ その他、タグラグビーをプレーする上で必要ない物

5、選手の入替え

- (1) 入替は以下の時に何度でも可。

- ① ポイント（トライ）後
- ② ハーフタイム開始時
- ③ 負傷でゲームが中断した時

- (2) 入替は帯同コーチが第 3 タッチジャッジに申し出、レフリーが承認して成立する。入れ替えが行われている間、試合は再開しない（時間は継続）。入れ替えを行うチームは速やかに実施できるよう準備する。

- (3) 負傷により退場したプレーヤーがその試合に戻ることはできるが、出血している状態で戻ることはできない。

6、レフリー

(1) レフリー1名 アシスタントレフリー2名、第3タッチジャッジ1名とし、主催者が任命する。

※レフリー以外は、出場チームからの協力をお願いいたします。

(2) レフリーはグラウンド内で判定を行う。

(3) アシスタントレフリーはタッチライン沿いで以下を行う。

- ① レフリーの判定の補佐。
- ② 選手の入替えの補佐。
- ③ 負傷者のための試合停止の要請。
- ④ 帯同コーチ・観客の悪質な妨害行為のレフリーへの報告。

(4) 第3タッチジャッジはグラウンドサイド、ハーフウェーラインに位置し、以下を行う。

- ① 選手の入替の管理
- ② チーム、帯同コーチ、観客の悪質な妨害行為に対する警告並びにレフリーへの報告。

(5) レフリーはその試合における唯一の事実の判定者であり、レフリーに対して抗議することは認められない。

→ 罰：プレーヤーは警告以上の処分が科せられる。再開は相手側フリーパス。相手がフリーパスの権利を有している場合には再開地点を5m前進させる。帯同コーチ、観客は警告以上の処分が科される。追加処分が科せられる場合もある。

(6) レフリー（アシスタントレフリー、第3タッチジャッジも含む）並びに競技役員はプレーヤー、帯同コーチ、観客の行為が試合進行に対しての悪質な妨害であると判断した場合、該当者に警告以上の処分を科す。悪質な妨害行為とは次の行為を指す。

- ① 時間を空費する行為
- ② 故意の反則
- ③ 相手が反則をしているように見せかける行為
- ④ 暴力行為
- ⑤ 自チームならびに相手チームプレーヤーへの暴言
- ⑥ 競技役員、レフリー・アシスタントレフリー、第3タッチジャッジへの暴言
- ⑦ その他、レフリー、アシスタントレフリー、第3タッチジャッジが試合進行の妨げになると判断した行為。

(7) 試合中に(6)の行為が起きた場合、レフリーは次のように対応する。

- ① プレーヤーに対しては警告以上の処分を科し、問題行動のあった地点から相手側フリーパスで再開する。
- ② 帯同コーチ、観客の行為については、問題行為が起こった時点で警告以上の処分が科される。レフリーは必要に応じて試合を中断することができる。その場合の再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）。アシスタントレフリー、第3タッチジャッジ、競技役員が妨害行為をレフリーに報告した場合、レフリーは当該の者にハーフタイムまたは試合終了後に警告以上の処分を科す。
- ③ 警告以上の処分を受けたプレーヤー・帯同コーチ・観客は、試合終了後、直ちに大会本部に出向き、追加処分を受ける。プレーヤー、及び自チームを応援する観客が注意を受けた帯同コーチも同様である。

(8) レフリーは以下の場合に試合を停止することができる。

- ① プレーヤーが負傷し起きあがれない場合。メディカルサポーターからの要請による場合も同様とする。
- ② プレーヤー、帯同コーチ、観客に注意を与える場合。

レフリーが、以上の理由で試合を停止した場合、再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）。競技時間を停止する場合、レフリーは明確な方法で試合時間の管理者に伝達する。

7、退場を命じられたプレーヤー、帯同コーチ、観客への罰について

(1) 試合中に退場を命じられたプレーヤーについては入替プレーヤーを認めない。プレーヤーの退場は原則として当該試合のみ有効とし、次の試合への出場は認める。

(2) 帯同コーチ及び観客の退場は終日有効である。原則として翌日以降には持ち越さない。

8、メディカルサポーター

(1) メディカルサポーターは主催者が任命し、自らの判断でレフリーの許可を得ずに競技グラウンド内に入ることができる。

(2) メディカルサポーターは、負傷者が試合に参加できないと判断した場合に限りレフリーに試合停止を要請できる。

9、試合中の飲水

プレーヤーはハーフタイムには、サイドチェンジを行った後にチームから飲水を行える。ただし、ハーフタイムに自チームのベンチに戻ることはできない。プレーヤーは後半開始時には競技再開ができる位置にいないといけない。レフリーは、チームの行為が遅延行為にあたる判断した場合、相手側のフリーパスによる再開を行う。

10、試合時間の管理と試合の記録

(1) 試合時間の管理及び試合の記録を行う者は主催者が任命する。

(2) 試合時間を管理するものは、レフリーの合図により試合時間の進行を止めることができる。

1 1、試合終了（ノーサイド）

試合終了（ノーサイド）はプレーの切れ目ではなく時間によって区切られる。レフリーが試合を停止した場合その試合はレフリーのノーサイドの合図をもって終了とする。

1 2、試合の勝敗

ノーサイドの時点で得点数の多いチームを勝者とする。

1 3、予選大会における予選プール戦、決勝トーナメント戦の詳細は以下を原則とする。（参加チーム数により変更あり）

(1) 予選プール戦

- ① 1 プール 4 チームによる総当り戦方式とする。
- ② 勝ち 3 点、引き分け 2 点、負け 1 点、棄権 0 点とする。
- ③ 不戦勝には勝ち点 3 と得点 5 点を与える。
- ④ 不戦敗したチームは勝ち点、得点ともに 0 点とする。
- ⑤ 順位はポイントの多いチームから上位とする。上位 2 チームが決勝トーナメントに出場する。
- ⑥ 予選プール戦でポイントが同数のチームが複数出た場合は下記の順で順位を決める。
 - a 直接対戦における勝者チーム。
 - b プール戦における総得失点差。
 - c 主催者の定める方法による抽選。

(2) 決勝トーナメント

- ① 優勝、準優勝、3 位（2 チーム）を決定する。
- ② トーナメント戦で同点の場合は下記のように勝者を決定する。
 - a 準決勝までは前半 3 分－後半 3 分の延長戦を行う（前半と後半でコートチェンジを行いインターバルはなし）。延長戦でさらに同点の場合、主催者の定める方法による抽選を行う。
 - b 決勝戦では両チーム優勝とする。延長戦等は行わない。

福岡県大会競技規則 2016

1、ラグビー精神の尊重

タグラグビーは、ラグビー精神を尊重するプレーヤー、帯同コーチ、レフリー等関係者によって行われる。ラグビー精神に反する行為を行う者は、試合に参加することができない。

2、試合開始前

双方のチーム代表プレーヤーがトスをし、勝った方が試合開始のフリーパス、またはサイドのどちらかを選ぶ。

3、試合時間並びに試合の開始

試合時間は前半7分－ハーフタイム1分－後半7分とし、前半と後半でコートチェンジを行う。試合の開始並びに後半の開始はセンターライン中央からのフリーパスで行う。後半開始のフリーパスは前半開始のフリーパスを行わなかったチームが行う。

4、接触行為の禁止

全てのプレーヤーは相手選手と接触をしないように努めねばならない。一切の接触行為並びに接触につながる行為をしてはならない。帯同コーチは、自チームのプレーヤーに接触行為並びに接触につながる行為を行わせない義務を負う。特に、以下の行為は厳禁とする。

(1) ボールを持っている時

- ① 防御側プレーヤーに対し、体当たりをする、あるいはハンドオフ、タグを取りに来た手を払うなどの接触行為。
- ② 防御側プレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には以下のような行為を指す。
 - ・ 待ちかまえている防御側プレーヤーに向かって、または接近して過度の速度で直線的に走る。
 - ・ 複数のプレーヤーが近接して待ちかまえている狭い間隙を、過度の速度で走り抜けようとする。なお、選手間の間隙が狭いか否かはレフリーが判断する。
 - ・ 防御側プレーヤーとの接触が予見されるにもかかわらず進路、速度を変更しないで走る。
 - ・ タグを取られることが予見されるにもかかわらず、強引に直線的に走る。
 - ・ タグを取られた後、停止・パスをしようとせずに前進する。
 - ・ 進行方向に背中を向けて走る、相手を交わすために1回転以上回転する。等

(2) 防御する時

- ① タックル、あるいは体を接触させながらタグを取る、タグを取った後相手プレーヤーと接触する等の接触行為。
- ② ボールを持っているプレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には次のような行為を指す。
 - ・ タグを取りに行く際に、自分からは遠い側のタグを取りに行く。
 - ・ タグを取った後、ボールを持っているプレーヤーとの接触が避けられない体勢、速度でタグを取りに行く。
 - ・ 接触が予見されるにもかかわらず、進路や速度を変えずに走り、タグを取りに行く。
 - ・ ボールを持っているプレーヤーの後方から抱きつくようにしてタグを取る。
 - ・ ボールを持ったプレーヤーの進行方向に足を出す。
 - ・ ボールを持ったプレーヤーの進路を、身体や足でふさぎながらタグを取ろうとする。具体的には、ボールを持ったプレーヤーと正対した際に、接触する直前までタグを取ろうとせずに前進したり、相手を逃げられないような状態に追い込んでタグを取ったりする等の行為を指す。
 - ・ 両手を広げて防御をする。
 - ・ タグを取りに行く姿勢を取らずにボールを持っているプレーヤーに接近したり、ボールを持ったプレーヤーの前に立ちはだかったりする、等。

以上については、身体の接触がなく、体格、年齢関係なしに誰でも楽しくプレーできるというタグラグビーの理念を否定する行為である。

試合中にこれらのプレーが発生した場合、レフリーは試合を停止し、プレーヤーに注意以上の処分を科す。また、競技役員は、同一チームに上記のような行為が頻繁に起きていると判断される場合には帯同コーチに対し警告以上の処分を与えることができる。

5、フリーパス

(1) 【フリーパス】とはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、レフリーの合図で、自分より後方のプレーヤーにパスをすることである。

(2) フリーパスが行われるときに、プレーヤー並びにレフリーは次のようにしなければならない。

①ボールを持っている側

フリーパスからの最初のパスをもらうプレーヤーはパスをする選手から2m以内にいないてはならない。走りながらパスを貰う場合はそのスタートする地点を2m以内とする。

②防御側のプレーヤー

防御側は速やかに5m下がらなくてはならない。

- ③レフリーは防御側の全てのプレーヤーが5m下がったことを確認してからプレー開始の合図をする。防御側が速やかに後退しない場合、時間を空費する行為として罰する。
- (3) インゴール及びゴールラインから5m以内のフィールドオブプレーではフリーパスは行われぬ。この地域でフリーパスが行われる状況が生じた場合、その地点と相対するゴールライン前5mの地点からフリーパスを行う〔5mフリーパス〕。

6、プレー

- (1) 腰に2本のタグを付け、自立しているプレーヤーは、相手プレーヤーと接触もしくは接触を誘発しないかぎり、次の行為ができる。

- ① ボールを持って自由に動くこと。
- ② 自分の真横、もしくは自分の後方にボールを投げること〔パス〕。
- ③ 空中にあるボールを捕球すること。
- ④ 地面にあるボールを拾うこと。
- ⑤ 保持しているボールをインゴールにつけること。
- ⑥ ボールを持っているプレーヤーのタグを取る。プレーヤーがタッチライン上、またはタッチラインの外にいても同様である。

- (2) プレーヤーは次の行為をしてはならない。

- ① 2本のタグをそれぞれ左右の腰につけないでプレーする。
- ② ボールを持っていない相手プレーヤーのタグを取る。
- ③ ボールを離れたときの位置より前方にボールを投げる〔スローフォワード〕。
- ④ 保持している、または手に触ったボールを前方に落とす〔ノックオン〕。ただし保持しているボールを地面に着けただけではノックオンにはならない。
- ⑤ 相手をかわす以外の方法でタグを取ることを妨げる。
- ⑥ 相手のボールを奪う
- ⑦ あらゆる種類のキック。

→罰：その地点で相手のフリーパス

- (3) ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだり超えたりした場合、また、投げたボールがタッチラインに触れたり超えたりした場合は〔タッチ〕となる。再開はタッチになった地点から相手側のフリーパスで行う。その際、ボールはタッチラインの外にいる、またはタッチライン上のプレーヤーが投げ入れる。
- (4) ボールを持ったプレーヤー及びボールが、タッチインゴール及びデッドボールラインに触れた、または超えた場合、停止直前にボールを保持していなかった側の5mフリーパスで試合を再開する。
- (5) インゴール及びゴールライン前5m以内で反則が起きた場合、相手側の5mフリーパスで再開する。
- (6) プレーヤーが自チームのインゴールにボールを着けた場合、相手側のフリーパスで再開する。
- (7) ボールを持っているプレーヤーが故意にではなく転倒した場合、レフリーは、それにより相手の防御の機会が失われた、あるいは試合の停滞が生じる、さらにプレーヤーの安全が確保できないと判断した場合、速やかに試合を停止しボールを保持していた側のフリーパス（タグの回数は継続）を命じる。ただし、プレーヤーの安全かつプレーの継続に関係がないと判断した場合はこの限りではない。故意の転倒は悪質な妨害行為である。
- (8) 競技規則にない状況が起きた場合、レフリーは試合停止を命じ、停止直前にボールを保持していた側のフリーパスで再開する。

7、得点〔トライ〕

- (1) 得点〔トライ〕は、左右の腰に1本ずつのタグを着け、自立しているプレーヤーが相手インゴール〔ゴールラインを含む〕にボールを着けることによって得られる。トライによって得られる得点は1点である。

- (2) 次の場合は得点が認められない。

- ① ボールをインゴールに着けたときに両足がインゴールに入っていない。
- ② インゴールでタグを取られた後、またはインゴール直前でタグを取られ、情性でインゴールに入った後ボールを相手インゴールに着けた。

以上の場合、ボール保持側の5mフリーパスで試合を再開する。ただし、タグの回数は継続する。4回目のタグが発生したら防御側の5mフリーパスで再開する。

- (3) ペナルティトライ

レフリーは防御側の反則行為がなければトライが与えられたと思われる場合は、〔ペナルティトライ〕を与える。

- (4) トライ後の再開

トライ後の再開はセンターライン中央からトライをとられたチームのフリーパスにて行う。ただし、トライの後、防御側が接触行為等の妨害行為をした場合、レフリーは当該プレーヤーに警告以上の処分を与えた上で、センターライン中央でトライをした側にフリーパスを与える。

8、タグを取る行為〔タグ〕

- (1) 〔タグ〕は防御側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーのどちらかのタグを取るによって成立する。
- (2) タグが発生した場合、プレーヤーは速やかに次の行為を行う。
 - ① タグを取られたプレーヤーは直ちに前進を止め、ボールをパスする。違反行為は〔オーバーステップ〕。
 - ② タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡して返す。タグを取られたプレーヤーはタグを腰に着ける。
→①②に違反した場合の罰：その地点で相手のフリーパス。警告以上の罰が与えられる時もある。
- (3) タグが発生すると、タグを取られたプレーヤーがボールを離れた地点を基準として、ゴールラインに平行なオフサイドラインが生じる。オフサイドラインの前方にいる防御側のプレーヤーは速やかにオフサイドラインの後方に下がる。下がりきれない防御側プレーヤーはボールを持った側のプレーヤーがパスをしたり走ったりするのを妨げないようにする。
→罰：その地点に相対する防御側オフサイドライン上で相手のフリーパス。
- (4) インゴールでタグが発生した場合、5 mフリーパスで再開する（タグの回数は継続）。
- (5) タグを4回取られた地点で、攻撃権は相手チームに移る。再開は相手側のフリーパスで行う。

9、アドバンテージ

レフリーは反則が生じてもプレーを継続することができる〔アドバンテージ〕。ただし、プレーヤーの安全が確保できないと判断した場合は速やかに停止を命じる。レフリーはアドバンテージを与えた側が地域的、戦術的利益を得られたと判断したらアドバンテージを解消する。そうでない場合は直ちにプレーを停止し、反則のあった地点で反則をしなかった側にフリーパスを与える。